

日本博 報道用参考資料

<CONTENTS>

- ・日本博とは/総合テーマ/基本コンセプト
- ・開催までの経緯
- ・日本博の枠組み/実施にあたってのポイント
- ・検討・実施体制について
- ・日本博における横断的取組と期待される効果
- ・プロジェクトの枠組み
- ・プロジェクトの概要(2019年度)
- ・予算/事業の採択状況/今後の予定
- ・公式SNSアカウント

令和2年(2020年)1月15日

文化庁参事官(芸術文化担当)付新文化芸術創造活動推進室 日本芸術文化振興会日本博事務局

日本博とは

日本博は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とする文化プログラムの中核的事業として、文化庁及び独立行政法人日本芸術文化振興会が中心となって、関係府省庁、地方公共団体、民間団体等と連携しつつ、各地域が誇る様々な文化観光資源を年間通じて体系的に創成・展開する大型国家プロジェクトです。

「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演、文化芸術祭等のプロジェクトを日本全国で「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じ、体系的に展開していきます。本事業は令和2年度(2020年)を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く行います。

総合テーマ

日本人と自然

基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きと生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきました。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの 絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・ア ニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然に対し て共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしています。

日本博では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生します。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍 性の共有、平和の祈りへとつながることを希求します。

開催までの経緯

これまで、日本博に関しては政府の『日本の美』総合プロジェクト懇親会において、日本人の 美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施 策の検討等を実施してきました。

第6回の同懇親会(平成30年・2018年6月22日開催)において、「日本博(仮称)」を、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することについて、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示がされました。

2018年12月には、総理を議長とする日本博総合推進会議が開催され、テーマ・コンセプト、開催の検討状況・実施体制などが報告され、これを受け、関係府省庁、文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の皆様と連携・協力したプロジェクトとして、全国で日本博を開催し、訪日外国人の「地方への誘客」を促進することとしています。

※『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏〔~平成30年・2018年 8月〕・小林忠氏〔平成31年/令和元年・2019年4月〕)

これまでの関連スケジュール

· 平成27年(2015年)

「『日本の美』総合プロジェクト懇談会|発足

·平成28年(2016年)

「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

· 平成30年(2018年)

「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

・平成31年・令和元年(2019年)

「Japan 2019」(於:米国), 「響きあうアジア2019」(於:東南アジア)を開催

・令和2年(2020年)

「日本博」(於:日本)を開催(※ オリパラ前、期間中及びオリパラ後に開催)

旗揚げ式

平成31年(2019年)3月3日に国立劇場の大劇場において「日本博」の旗揚げ式を開催しました。約700名を迎え、林英哲氏・英哲風雲の会による和太鼓演奏。宮田文化庁長官と歌舞伎俳優の中村扇雀氏・尾上菊之助氏らによるトークセッションなども実施。

柴山文部科学大臣(当時)、宮田文化庁長官が日本博の開幕を宣言しました。







日本博の枠組み



共通コンセプト

縄文から現代

日本人と自然

主な分野	
美術・文化財	舞台芸術
メディア芸術	生活文化・文芸・音楽
食文化・自然	デザイン・ファッション
共生社会・多文化共生	被災地復興

実施にあたってのポイント

令和2年度(2020年)、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を 結集した国家プロジェクト

- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立
- 文化芸術立国としての基盤強化

検討・実施体制について

日本博総合推進会

議長 : 内閣総理大臣 議長代理: 内閣官房長官

議長補佐: 内閣官房副長官(参)

構成員 : オリパラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、

小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

各省庁間の 連携・調整

「日本博」の開催準備等に関する関係府省連絡会議

議長:内閣官房副長官(参)、議長代理:内閣官房副長官補(内政) 議長補佐(全体総括担当):文化庁長官

議長補佐(オリパラとの連携担当):オリパラ事務局長

文化庁

まちひと オリパラ 事務局 知財 事務局 アイヌ 政策室 観光庁 宮内庁 警察庁 総務省 外務省 国税庁 文科省 厚労省 農水省 経産省 環境省 しごと 事務局

企画の立 案・実施へ の助言

適官助言等

文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、 日本博事務局事務総長

国立文化施設

(独) 国立文化財機構

(独) 国立美術館

(独) 国立科学博物館

国立アイヌ民族博物館

国立近現代建築資料館

(独)

日本芸術文化振興会 日本博事務局

事務総長:理事長

企画の立

案・実施

ı

「日本博」における横断的取組と期待される効果

現状・課題

- ◎個々の分野、施設ごとに、インバウンド、情報発信などを対応しており、一元的・継続的な情報発信が十分ではない。
- ◎好事例として蓄積されたノウハウが全国に展開されていない。



方針

- ○戦略的プロモーション、一元的・継続的な情報発信、訪日外国人向けコンテンツの開発、文化体験 ツアー造成など
- ○新しい手法・演出・技術を積極的に導入した取組 を推進し、蓄積されたノウハウを全国に横展開

国民自身が、自国文化の魅力や 素晴らしさを発見・再認識する 機会の拡充

◎日本博の具体的な企画・実施を通じた魅力の再発見・人材育成へ

・日本の歴史、芸術、食、自然環 境等の魅力の再発見、価値づけを 行い国内外へ発信

◎子供・若者・障がい者・高齢者が 参加できる文化プログラム・体験機 会の拡充

- ・新たな技術・演出・手法も活用 した伝統文化から現代芸術までの 体験機会の拡充
- ・国民参加型のプロジェクト実施 等

文化による 「国家ブランディング」を 強化





戦略的取組による好循環を形成

官民連携の下、オールジャパンで 国内外への戦略的プロモーション を推進

◎質の高い文化資源による 戦略的プロモーションのための 仕組みの構築

- ・全ての分野を一元的に扱った 情報、VR・AR、高精細画像・ 映像の先端技術を活用したコン テンツ制作・多言語化等による 海外プロモーション・パッケー ジを提供
- ・観光庁、INTO等との連携
- ◎官民連携による異業種連携 プロモーション促進
 - ・文化との連携による商品開発 や、企業の先端技術開発・アピール 等

「文化芸術立国」としての 基盤を強化



文化による「観光インバウンド」拡充、 訪日外国人の「地方への誘客」 の促進

世界中が注目し、来日外国人増が見込まれる好機を活かした積極的な受け入れ環境の整備

- ◎ 多様な広報媒体による「旅前・旅中・旅後」情報発信等によるインバウンド促進
 - ・官民連携(自治体、旅行・ホテル・飲食等関係団体、交通関係団体との官民連携体制による来訪者ニーズ把握、誘客のための多言語による情報発信やニーズに応じた相談・案内等の取組促進
 - ・ 実施期間中の社会的・経済的効果を個別に測定・分析・マーケティング等で活用 等
- ◎ 複数の文化拠点による企画連携を取り込んだ周遊ルートモデルの開発
- ◎ 外国人向けのインタラクティブな体験型コンテンツ開発、劇場ツアー開発

プロジェクトの枠組み

日本博では、日本全国を会場として、日本博のテーマ「日本人と自然」の下で、美術館・博物館の 展覧会、舞台公演、地域の芸術祭などに加えて、様々な文化芸術を展開します。

日本の縄文時代から現代まで、自然に対しどのように向き合い、その想いを表現し後世へ守り伝えてきたかを各地の文化芸術を国内外の多くの方々に体系的に紹介します。また、皆様に、様々な展覧会、舞台公演、芸術祭、体験型プログラムに参加することで、日本文化をより深く理解し楽しんでいただきたいと思います。

日本博では、国・日本芸術文化振興会が、地方自治体・芸術団体・企業と一緒に企画・実施する「主催・共催型」、地方自治体・芸術団体・企業の企画による「公募助成型」、「参画型」の枠組みがあります。

日本博はより多くの方々に日本博を通じた文化芸術を国内外に発信し、海外からの多くの皆様の訪問を誘うためのプログラムです。日本人の皆様にとっても日本の伝統、芸術、食、自然環境等の魅力や位置づけ・再評価を行うきっかけとなり、皆様自身が国内外への発信につなげていただくことを期待します。

主催・共済型

総合大型プロジェクト

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト (国、文化施設、民間団体、事務員等が共同で企画・実施)

イメージ

- ▶ 縄文から近現代の美術
- ▶ 伝統芸能・現代舞台芸術
- ▶ メディア芸術
- ▶ 生活文化・文芸・音楽等の複合領域を一つの 空間で演出するプロジェクト

分野別大規模プロジェクト

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大 規模な展示・公演等のプロジェクト

(全国的な活動を行う団体等が主催)

イメージ

▶ 地方自治体や文化関係団体等で一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

公募助成型

- ■イノベーション型プロジェクト
- ■文化資源活用推進事業

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一 部助成

イメージ

- ① 地域の特色を生かして新たに企画・実施する プロジェクト
- ② 文化関係団体が実施する新規制・創造性が高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

参画型

参画プロジェクト

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容 を認定

イメージ

- ① テーマ・コンセプトに沿う日本を代表する プロジェクト
- ② 「日本博」として国内外に発信するものとして相応しいプロジェクト 等

プロジェクトの概要(2019年度)

総合テーマ「日本人と自然」の下に、以下のような取組を通じて、ジャンルを超えた新たなパートナーシップ構築やプログラム創成のノウハウを蓄積し、今後のレガシーとして次世代に繋いでいきます。

◆縄文から現代までの代表

国内各地の縄文文化から国宝、浮世絵、日本の衣食住、ユネスコ無形文化遺産、国立公園、 漫画・アニメ、ファッションなどにおいて、日本人が自然とどのように向き合い、文化芸術活動を通じて 表現し、守り伝えようとしているか等をテーマに、訪日外国人の方々をはじめ、多くの方々に 楽しんでいただくことを意識したプログラムを展開します。

◆地域発の国際芸術祭など

瀬戸内国際芸術祭など、地方公共団体と芸術団体などが連携して行う、地域の国際的な芸術祭が 多数企画され、訪日外国人の滞在型誘客を目指しています。

◆美術展・舞台芸術に関連した新たな訪日外国人向け体験型プログラム創成

Discoverシリーズ(能、狂言、文楽、歌舞伎、組踊)での舞台体験や、 美術品・文化財の対話型鑑賞など新たなプログラムを創成します。

◆北海道から沖縄まで

アイヌ(民族共生象徴空間:ウポポイ)令和2年2020年4月開始、沖縄の伝統芸能である 組踊300周年を機に、国内各地で関連プロジェクトを実施、海外へ発信

◆全国巡回

日本遺産などの地で伝統芸能、伝統工芸、食文化などの体験型プログラムを企画しています。



予算

2019年度予算額 34.6億円

2020年度予算額(案) 45.3億円

事業の採択状況

2019年4月以降、「日本博」プロジェクトの公募等を行い、審査・評価の結果、 主催・共催型1次・2次・3次分、公募助成型1次・2次・3次分 <u>全体で計137件を採択</u> 参画プロジェクト <u>計232件を認証(1月15日現在)</u>を採択。

◆主催・共催型 : 69件 (118件提案)

※一次受付:19件採択(23件提案)、二次受付:31件採択(46件提案)、

三次受付:19件採択(49件提案)

◆公募助成型:68件(177件申請)

※一次募集:37件採択(113件申請)、二次募集:27件採択(48件申請)、

三次募集:4件採択(16件申請)

◆参画プロジェクト : 232件 (1月15日現在)

今後の予定

- ◆日本博広報大使発表(1月15日 虎ノ門ヒルズ) 黒柳徹子氏の「日本博大使」 3月14日オープニングセレモニーの詳細発表、現時点の主なラインナップを説明
- ◆ダボス会議におけるロイター編集広報実施(1月21日 ダボス・スイス) これを皮切りに様々な海外広報を開始
- ◆「日本博」2020オープニングセレモニー 3月14日 東京国立博物館 第1部記念式典に引き続き、歌舞伎・能・文楽・雅楽・琉球芸能・合唱など 多くの舞台芸術が、東京国立博物館本館前庭に設営された特設舞台に集います。 プロジェクション・マッピングによる空間演出や、アーティストによるインスタレーションなど と一体になって、一斉に咲き競います。日本博広報大使である黒柳氏も登壇。 上野公園でもライブ・ビューイングでお楽しみいただけます。

「日本博」の公式SNSアカウント

「日本博」公式SNS開設

「日本博」公式のTwitter、Facebookアカウントを、2019年12月25日に開設いたしました。同アカウントでは今後、「日本博」に登録している事業の開催情報に加え、その制作過程など、各事業に関する情報を随時発信していく予定です。







<「日本博」公式Twitter アカウント> アカウント名:Japan Cultural Expo | 日本博 ユーザーネーム:@JPNCulturalExpo

URL: https://twitter.com/JPNCulturalExpo

<「日本博」公式Facebook アカウント> アカウント名: Japan Cultural Expo | 日本博 ユーザーネーム: @Japan Cultural Expo

URL: https://www.facebook.com/JapanCulturalExpo/





QRコードを読み取ってご覧ください。

事業に関する関係リンク

文化庁ホームページ

https://www.bunka.go.jp/seisaku/nihonhaku/index.html

企画委員会

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/nihonhaku_kkaku/

日本博総合推進会議

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nihonhaku/

関係府省庁会議

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/nihonhaku_junbi/

文化資源を活用したインバウンドのための環境整備

令和2年度予算額(案) 98.4億円





日本博を契機とした観光コンテンツの拡充

令和2年度予算額(案)

45.3億円



事業の概要

文化庁を中心とした関係府省庁や地方自治体、文化施設、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクトである「日本博」の開催を契機として、各地域 が誇る様々な文化観光資源を年間通じて体系的に創成・展開するとともに、国内外への戦略的プロモーションを推進し、文化による「国家プランディング」の強化、 「観光インパウンド」の飛躍的・持続的拡充を図る。 あわせて、地方博物館における国等が有する「地域ゆかりの文化資産」を活用した展示等の取組を通じて、各地域の歴史文化の魅力を発信することにより、地方への 誘客・消費の拡大を促し、地域活性化の好循環の創出を図る。

○参考:日本博総合推進会議(第1回)【平成30年12月26日開催】 < 総理発言(関係部分抜粋)>
その津川さんが確り返しおっしゃっていたことでありますが、これらの取組の集大成として、世界の関心が集まる東京オリンピック・パラリンピック・2020年に、世界中の人々が日本に来て、全国各地で日本の美を体感できる日本博を是非開催したいというものでありました。私といたしましても、我が国の文化、そして美が歴史の至る所に発信され、より深に理解につながっていく、言わばその集大成として、この日本博を依留付けたいと考えています。 (中略)日本問は、総合テーマである。大ほども物章以を限りましたが、日本人と自然の下に、確実時代のより大の大力である。大きでもある。大きどもある。大きでもあまりたが、日本人と自然の下に、確実時代のより大力である。大きでもある。大きでもある。大きでもある。大きでもあり、大力に大力に対しています。 (中略)文化庁が中心となって、各関係府省が連携し、関係企業・団体の協力を得ながら、日本博の開催に向けて万端の準備を進めるようお願い中し上げます。

文化資源コンテンツ創成事業







